

インフラ点検 実用化へ

岐阜大と各務原市 ドローン活用で協定

各務原市と岐阜大イ
ンフラマネジメント技
術研究センターは六
日、橋梁の点検に小型
無人機「ドローン」な
どの機器を活用するた
めの連携協定を結ん
だ。全国に先駆けて、
インフラ点検でドロー
ンの実用化を目指す。
同市では、二〇一三
年に完成した木曾川に
かかる各務原大橋（全
長五百九十四メートル）が来
年、点検時期を迎え
る。市によると、点検
費用は約五千万円。
長大な足場を組む必要
があり、橋梁用の点検
車両でも作業しづら
い場所があるという。同
センターは今年四月、
橋でドローンなどを使
った実証試験をし、技
術の有効性を確認し
た。

器を使った実証試験で
得たデータを、市に提
供する。市は、調査結
果をもとに橋の部位に
応じて機器を選定し、
実際の点検に活用でき
るか判断する。

国は検査に目視を義
務付けているが、機器
も活用することで、足
場を組む費用削減など
が見込める。また、目
視では難しい橋の損傷
状況も確認できる。

締結により、センタ
ーはドローンなどの機



(写真：各務原市 HP より)

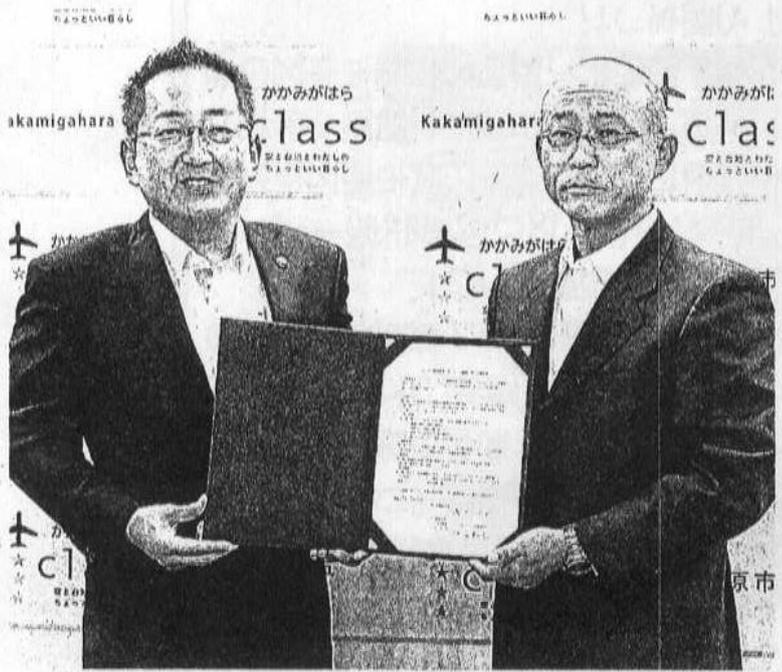
橋点検、ドローン活用

各務原市と岐阜大センター協定

各務原市は6日、岐阜大工学部付属インフラマネジメント技術研究所センターと、橋梁点検でのドローンなど建設ロボットの活用に

向けた連携協定を締結した。足場を設置する従来の橋梁点検は多額の費用がかかることから、ロボットの活用で効率化と省力化を図

る。市は、インフラの点検にドローンなどを活用するプロジェクトを進める同センターとの連携により、2013



協定書を交わした沢田和秀センター長(右)と浅野健司市長＝各務原市役所

年に完成した各務原大橋(全長594m)で、建設ロボットによる初の橋梁点検を来年度にも実施する予定。

既に今年4月に同橋の一部区間で、民間企業が開発中の建設ロボットによる点検の試験を実施。11月に再度試験を行い、橋梁部位に応じた調査機器を選び、建設ロボットの点検精度を見極めていく。

市役所で締結式が行われ、沢田和秀同センター長と、浅野健司市長が協定書を交わした。(岡田敬史)

ドローンで橋を点検

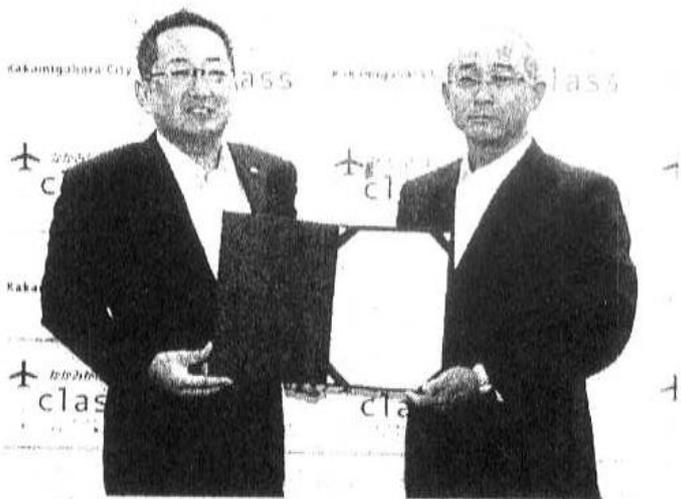
各務原市と岐阜大が連携

各務原市と岐阜大学は、小型無人機「ドローン」などの建設ロボットを活用した橋の点検に関する連携協定を締結した。

岐阜大工学部付属インフラマネジメント技術研究センターは昨年8月、国の事業採択を受け、ドローンなどを扱う企業6社の協力を得て橋脚点検プロジェクトを進めている。インフラの維持管

理にかかる費用を抑え、建設ロボットの有効活用を探るのが狙い。今回の協定締結に先立ち、4月に各務原市の各務原大橋(市道)で試験点検を実施している。

協定は各務原大橋が来年3月に築5年による法定点検時期を迎えるため、この点検を全国に先駆けてドローンを使って実施するという内容。国が定める橋



ドローンを使った橋の点検で連携協定を締結した各務原市の浅野市長(左)と沢田・岐阜大工学部付属インフラマネジメント技術研究センター長
—各務原市役所で

の点検は人間の目で確認する「近接目視」を原則としているが、市道の橋は市の裁量で決められる。市は橋の定期点検で足場の設置に見込まれる5140万

円の高額費用を抑えるメリットがある。市役所であった締結式で浅野健司市長と沢田和秀・同センター長が協定書に調印した。

【立松勝】